

伊勢湾最湾奥に位置する名古屋港ガーデンふ頭で採集された 十脚目甲殻類 (第2報)

中嶋 清徳⁽¹⁾ 三木 優矢⁽¹⁾ 中野 秀彦⁽²⁾

⁽¹⁾ 名古屋港水族館 (公益財団法人名古屋みなと振興財団) 〒455-0033 愛知県名古屋市港区港町1-3

⁽²⁾ ドリスジャパン株式会社 〒201-0003 東京都狹江市和泉本町2-34-24

Decapod crustaceans collected at the Port of Nagoya Garden Pier, located at the far end of Ise Bay in Japan (Part II)

Kiyonori NAKAJIMA⁽¹⁾ Yuya MIKI⁽¹⁾ Hidehiko NAKANO⁽²⁾

⁽¹⁾ Port of Nagoya Public Aquarium, Nagoya Port Foundation, 1-3 Minatomachi, Minato-ku, Nagoya, Aichi 455-0033, Japan

⁽²⁾ Doris Japan co.,ltd. 2-34-24 izumihoncho, komae, Tokyo 201-0003, Japan

Correspondence:

Kiyonori NAKAJIMA E-mail: k-nakajima@nagoyaminato.or.jp

要旨

伊勢湾最湾奥に位置する名古屋港ガーデンふ頭において2010年から2023年までに採集された十脚目甲殻類の標本から、抱卵亜目のコエビ下目2種、異尾下目3種、短尾下目3種の計8種が新たに確認された。1992年以降の調査で名古屋港ガーデンふ頭にて確認された十脚目甲殻類は計33種(根鰓亜目5種、抱卵亜目コエビ下目8種、アナジャコ下目1種、異尾下目3種、短尾下目16種)となった。

A survey of decapod crustaceans was conducted from 2010 to 2023 at the Port of Nagoya Garden Pier, located at the far end of Ise Bay, Japan. In this study, a total of eight species were identified, comprising two carideans, three anomurans, and three brachyurans. Since 1992, a total number of 33 species of decapod crustaceans have been recorded at the Port of Nagoya Garden Pier, including five species of dendrobranchiates, eight carideans, one gebiidean, three anomurans, and 16 brachyurans.

序文

名古屋港ガーデンふ頭(以降ガーデンふ頭)は伊勢湾最奥部の名古屋港内においても最も奥部に位置し(中嶋・春日井, 2022: 図1), 埋め立てにより水際は人工的に整備されている。名古屋港水族館では開館した1992年以降, ガーデンふ頭で確認された水棲生物について標本を基に記録し, 十脚目甲殻類(中嶋・春日井, 2022), 軟体動物(中嶋ほか, 2023), 魚類(春日井・中嶋, 2024)に関してこれまで報告してきた。本稿では十脚目甲殻類について中嶋・春日井(2022)に未掲載種の標本

を記載し, 新たに確認された8種に関する知見やガーデンふ頭での出現状況を報告する。

材料および方法

愛知県名古屋市港区港町のガーデンふ頭(35°9'17"N; 136°88'0"E)にて2010年から2023年までに採集された十脚目甲殻類について調査を行った。採集は岸壁から手網や徒手およびカゴ(市販品: カニかご(45×60×20 cm), 網かご(27×27×40 cm))などのトラップを用いた。採集された個体は冷却・冷凍後に解凍し,

5-10%中性ホルマリンまたは70-80%エタノールにて液浸標本にした。標本はノギスを用いて10分の1mmの精度で、コエビ類は甲長(CL:眼窩後縁から頭胸甲後縁までを計測)、異尾類は前甲長(SL)、短尾類は最大甲長(CL)と最大甲幅(CW)を測定した。雌雄判別および抱卵を確認できたものはその旨を記載した。これらの標本は登録番号(名古屋港水族館節足動物類資料の略号であるPNPA-Arに続く数字)を付して収蔵した。種の同定は林(1992), Komai and Imahuku(1996), Keenan et al.(1998), 林(2000), Komai(2000), Komai and Mishima(2003), 三浦(2008), 村岡(1979), 豊田ほか(2019)などを参考にした。標準和名ならびに学名についてはWoRMS Editorial Board(2024)に準拠し、記載順序はDe Grave et al.(2009)およびDe Grave et al.(2014)に従った。

結果

本調査にてガーデンふ頭で採集され標本で確認できた十脚目甲殻類は、以下に示す抱卵亜目のコエビ下目2種、異尾下目3種、短尾下目3種の計8種であった。

抱卵亜目 Pleocyemata

コエビ下目 Caridea

テナガエビ科 Palaemonidae

1. スジエビモドキ

Palaemon serrifer (Stimpson, 1860)

標本: PNPA-Ar01060, 3個体, 抱卵雌, CL: 7.6 mm (図1-1), CL: 5.2-6.2 mm, 2022年6月12日。

本種はインド洋から西太平洋の沿岸岩礁域に生息する普通種とされるが(林, 2000), ガーデンふ頭で見られるコエビ類の多くはユビナガスジエビ*P. macrodactylus* Rathbun, 1902で(中嶋・春日井, 2022), 本種は稀に見られる程度である。手網で採集された。

Thoridae

2. アシナガモエビ

Heptacarpus rectirostris (Stimpson, 1860)

標本: PNPA-Ar01062, 1個体, CL: 2.0 mm, 2022年6月2日(図1-2)。

函館湾から南九州沿岸に分布する(三宅, 1982)。形態がよく似ている同属のアシナガモエビモドキ*H.*

futilirostris (Spence Bate, 1888)とは第1・5歩脚長節の棘の有無や本数で区別される(林, 1992)。ガーデンふ頭での本種の確認は標本個体のみである。トラップ(カゴ)にて採集された。

異尾下目 Anomura

ホンヤドカリ科 Paguridae

3. ケアシホンヤドカリ

Pagurus lanuginosus De Haan, 1849

標本: PNPA-Ar01066, 1個体, SL: 1.7 mm, 2022年5月3日; PNPA-Ar01061, 1個体, SL: 1.6 mm, 2023年5月5日(図1-3)。

北海道南部から九州, 朝鮮半島, シベリアの日本海側沿岸に分布し, 潮間帯から潮下帯に生息する(Komai and Imahuku, 1996)。本種の鉗脚と歩脚には暗褐色の斑点が散在するため, 類似種のホシゾラホンヤドカリ*P. maculosus* Komai & Imafuku, 1996(同淡青色または淡紫色)と区別できる(Komai and Imahuku, 1996)。本種はトラップ(カゴ)で採集された。標本個体の宿貝はすべてムギガイ*Mitrella bicincta* (A. Gould, 1860)であった。

4. ユビナガホンヤドカリ

Pagurus minutus Hess, 1865

標本: PNPA-Ar01065, 1個体, SL: 3.1 mm, 2010年6月25日(図1-4)。

東アジア温帯海域の干潟に広く生息する(Komai and Mishima, 2003)。長年本種の学名は*P. dubius* (Ortmann, 1892)とされていたが, Komai and Mishima(2003)の再検討により*P. minutus*のへ改められた。標本個体はガーデンふ頭西側の中川運河に面した石積で徒手にて採集され, タマキビ*Littorina brevicula* (R. A. Philippi, 1844)を宿貝としていた。ガーデンふ頭では稀に見られる。

5. イクビホンヤドカリ

Pagurus proximus Komai, 2000

標本: PNPA-Ar01064, 2個体, SL: 1.9-2.1 mm, 2022年5月3日; PNPA-Ar01067, 1個体, SL: 2.3 mm, 2022年6月2日(図1-5)。

日本海, ピョートル大帝湾, 北海道南部から駿河湾までの太平洋沿岸, 大阪府, 広島県の潮間帯から水深155

mまで報告されている (Komatsu and Komai, 2009; 山田, 2022; 吉郷, 2022). 伊勢湾内においては標本に基づく本種の記録は確認できず, 本調査が初めての記録となる. 標本個体の宿貝はすべてムギガイ *M. bincincta* であった. トラップ (カゴ) で採集された.

短尾下目 Brachyura

ガザミ/ワタリガニ科 Portunidae

6. トゲノコギリガザミ

Scylla paramamosain Estampador, 1950

標本: PNPA-Ar01058, 1 個体, 雄, CL: 105.0 mm, CW: 155.0 mm, 2021 年 10 月 2 日 (図 1-6).

日本, 中国, 台湾, インドネシア, カンボジアなどに分布する (大城・今井, 2003). 前額突起や鉗脚の腕節外側 2 歯の形状および生時の体色 (Keenan et al., 1998; 三浦, 2008) から本種と同定した. ノコギリガザミ属 *Scylla* は Keenan et al. (1998) によって 4 種に分類され, 内 3 種が日本に生息している (大城・今井, 2003; 阪地・伏屋, 2015). また, 浜名湖では「ドウマン」とも呼ばれ, 重要な水産資源となっている (山川・鈴木, 1985). トゲノコギリガザミとしての報告は, 愛知県内では矢作川河口干潟において報告されている (浅香・鳥居, 2011). 標本個体は台風通過後の強風による苦潮 (青潮) 発生時に, 水面付近の壁面で手網にて採集された. ガーデンふ頭周辺では, 苦潮 (青潮) 発生時を中心に時折採集されている.

ベンケイガニ科 Sesamididae

7. クシテガニ

Parasesarma affine (De Haan, 1837)

標本: PNPA-Ar01057, 1 個体, 雌, CL: 8.3 mm, CW: 11.4 mm, 2021 年 9 月 26 日 (図 1-7).

千葉県から九州南部, 台湾, 香港までの中国沿岸に分布する (豊田ほか, 2019). 本種は「オオユビアカベンケイガニ」と表記されることもあるが, 山本ほか (2007) は和名の経緯を考証し, 三宅 (1983) に従い「クシテガニ」としている. 本稿でもこれに準じた. また本種は, 可動指上面の結節状顆粒の数と雄の第一性殖肢の構造により *P. plicatum* (Latreille, 1806) から *P. affine* に改められている (Rahayu and Ng, 2010). 標本個体は水面直下に設

置していた付着基盤より採集された. ガーデンふ頭での本種の確認は標本個体のみである. 名古屋市レッドデータブック 2025 では, 準絶滅危惧 (NT) に評価されている (名古屋市, 印刷中).

カクレガニ科 Pinnotheridae

8. ラスバンマメガニ

Pinnixa rathbuni Sakai, 1934

標本: PNPA-Ar01063, 1 個体, CL: 2.3 mm, CW: 2.7 mm, 2022 年 2 月 2 日 (図 1-8).

陸奥湾から瀬戸内海にかけての各地沿岸に分布し, 海底での群生 (酒井, 1976) や海面での群泳ならびにフサゴカイ類への寄寓などの生態が報告されている (伊藤, 2014). 伊勢湾にて本種のゾエアおよびメガロパ期幼生は 11 月から 2 月のプランクトンサンプル中に多数確認されている (Sekiguchi, 1977). 標本個体はメガロパ期幼生で手網にて採集された.

考察

ガーデンふ頭においてヤドカリ類は稀にユビナガホンヤドカリが確認されるだけだったが, 2022 年以降ケアシホンヤドカリとイクビホンヤドカリが確認されるようになった. しかし後者 2 種は体サイズから推定して着底後数ヶ月程度の個体であり, 5~6 月前後にのみ確認された. ヤドカリ類が利用する貝殻の量はヤドカリ類の個体群サイズや成長, 繁殖に影響を与えているが (朝倉, 2001), ガーデンふ頭に生息しヤドカリ類が利用できると思われる巻貝類は 5 種のみでその生息数も限られている (中嶋ほか, 2023). 巻貝類の貝殻の量は, ガーデンふ頭においてもヤドカリ類の生息を制限する要因となっていると思われる. 加えて夏季から秋季を中心に名古屋港内の底層付近は低酸素状態となり (名古屋港管理組合, 2024), このこともガーデンふ頭でのヤドカリ類の生息を困難にしていると推察される.

トゲノコギリガザミは底層付近の低酸素状態に起因する苦潮 (青潮) 発生時に採集された. ガーデンふ頭においては, 十脚目甲殻類だけでなく, 多くの生物が苦潮 (青潮) の影響を受けている (中嶋・春日井, 2022; 中嶋ほか, 2023; 春日井・中嶋, 2024). 多様な生物がより多く生息できるようにするためには, 今後も水質など



図1. 名古屋港ガーデンふ頭で採集された十脚目甲殻類

1. スジエビモドキ *Palaemon serrifer* : PNPA-Ar01060, CL: 7.6 mm.
2. アシナガモエビ *Heptacarpus rectirostris* : PNPA-Ar01062, CL: 2.0 mm.
3. ケアシホンヤドカリ *Pagurus lanuginosus* : PNPA-Ar01061, SL: 1.6 mm.
4. ユビナガホンヤドカリ *Pagurus minutus* : PNPA-Ar01065, SL: 3.1 mm. ※ホルマリン液浸
5. イクビホンヤドカリ *Pagurus proximus* : PNPA-Ar01067, SL: 2.3 mm.
6. トゲノコギリガザミ *Scylla paramamosain* : PNPA-Ar01058, CL: 105.0 mm, CW: 155.0 mm.
7. クシテガニ *Parasesarma affine* : PNPA-Ar01057, CL: 8.3 mm, CW: 11.4 mm.
8. ラスバンマメガニ *Pinnixa rathbuni* : PNPA-Ar01063, CL: 2.3 mm, CW: 2.7 mm. ※エタノール液浸

を改善する必要がある。

クシテガニは河口のヨシ原や干潟の奥部に生息するが (豊田ほか, 2019), 本調査では水面直下に設置していた付着基盤から採集された。過去に同じベンケイガニ科のアカテガニ *Chiromantes haematocheir* (De Haan, 1833) 1個体が水際に隣接する路上で採集されている (中嶋・春日井, 2022)。1992年の調査開始以来, ガーデンふ頭においてベンケイガニ科のカニ類が確認されたのはこれら2件のみである。

トゲノコギリガザミやクシテガニは全国的に個体数の減少が懸念されている種であり (日本ベントス学会 (編), 2012), アカテガニは名古屋市のレッドデータブック 2025において絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に評価されている (名古屋市, 印刷中)。今後もこれらのカニ類の出現状況を注視していきたい。

1992年以降の調査で名古屋港ガーデンふ頭にて確認された十脚目甲殻類は, 中嶋・春日井 (2022) で確認された25種に本稿の結果を加え, 計33種 (根鰓亜目クルマエビ上科3種, サクラエビ上科2種, 抱卵亜目コエビ下目8種, アナジャコ下目1種, 異尾下目3種, 短尾下目16種) となった (表1)。

謝辞

千葉中央博物館の駒井智幸博士にはイクビホンヤドカリに関して有益な助言をいただいた。名古屋港管理組合および公益財団法人名古屋みなと振興財団の関係各位には, 調査や情報収集および標本の保管に協力をいただいた。また同財団の春日井隆博士には, 本稿に対し有意義な指摘をいただいた。これらの方々に対し深く謝意を表する。

引用文献

浅香智也・鳥居亮一. 2011. 矢作川水系のカニ類相. 碧南海浜水族館年報, 23: 33-41.

朝倉 彰. 2001. Research Article ヤドカリ類における性差と種内競争 (1) 性差の形態的側面. 海洋と生物, 22(4): 398-403.

De Grave, S. et al. 2009. A classification of living and fossil genera of decapod crustaceans. The Raffles Bulletin of Zoology, Supplement, 21: 1-109.

De Grave, S., C.P. Li, L.M. Tsang, K.H. Chu, and T.-Y. Chan. 2014. Unweaving hippolytoid systematics (Crustacea, Decapoda, Hippolytidae): resurrection of several families. Zoologica Scripta, 43(5): 496-507.

林 健一. 1992. 日本産エビ類の分類と生態 (65) モエビ科 ツノモエビ属②. 海洋と生物, 80, 14(3): 180-184.

林 健一. 2000. 日本産エビ類の分類と生態 (110) テナガエビ科・テナガエビ亜科-スジエビ属②. 海洋と生物, 126, 22(1): 57-62.

伊藤寿茂. 2014. 飼育下におけるラスバンマメガニのフサゴカイ科の1種への寄寓. Cancer, 23: 19-25.

春日井 隆・中嶋清徳. 2024. 伊勢湾最湾奥に位置する名古屋港ガーデンふ頭で採集された魚類. なごやの生物多様性, 11: 47-61.

Keenan, C.P., P. Davie and D. Mann. 1998. A revision of the genus *Scylla* De Haan, 1833 (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Portunidae). Raffles Bulletin of Zoology, 46: 217-245.

Komai, T. 2000. The identity of *Pagurus brachiomastus* and descriptions of two new species of *Pagurus* (Crustacea: Decapoda: Anomura: Paguridae) from the northwestern Pacific. Species Diversity, 5(3): 229-265.

Komai, T. and M. Imafuku. 1996. Redescription of *Pagurus lanuginosus* with the establishment of a neotype, and description of a new closely related species (Decapoda: Anomura: Paguridae). Journal of crustacean Biology, 16(4): 782-796.

Komai, T. and S. Mishima. 2003. A redescription of *Pagurus minutus* Hess, 1865, a senior synonym of *Pagurus dubius* (Ortmann, 1892) (Crustacea: Decapoda: Anomura: Paguridae). Benthos Research, 58(1): 15-30.

Komatsu, H. and T. Komai. 2009. Thalassinidea, Anomura and Brachyura (Crustacea: Decapoda) from Northeastern Japan Collected during the “Research on Deep-sea Fauna and Pollutants off Pacific Coast of Northern Japan” Project. In: T. Fujita (ed.), Deep-sea Fauna and Pollutants off Pacific Coast of Northern Japan, National Museum of Nature and Science Monographs, 39, pp.581-613. National Museum of Nature and Science, Tokyo.

- 三浦知之. 2008. 干潟の生き物図鑑. 南方新社, 鹿児島. 197pp.
- 三宅貞祥. 1982. 原色日本大型甲殻類図鑑 (I). 保育社, 大阪. 261pp.
- 三宅貞祥. 1983. 原色日本大型甲殻類図鑑 (II). 保育社, 大阪. 277pp.
- 村岡健作. 1979. ラスバンマメガニ *Pinnixa rathbuni* Sakai (短尾類, カクレガニ科) の後期幼生. 動物学雑誌, 88 (3): 288-294.
- 中嶋清徳・春日井 隆. 2022. 伊勢湾最湾奥に位置する名古屋港ガーデンふ頭で採集された十脚目甲殻類. なごやの生物多様性, 9: 49-59.
- 中嶋清徳・中野秀彦・春日井 隆・木村妙子・木村昭一. 2023. 伊勢湾最湾奥に位置する名古屋港ガーデンふ頭で採集された軟体動物. なごやの生物多様性, 10: 111-123.
- 名古屋港管理組合. 2024. 名古屋港の水質. 底層溶存酸素調査. <https://www.port-of-nagoya.jp/shokai/kankyo/suishitsu/1001138.html>. 2024年8月8日確認
- 名古屋市. 印刷中. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2025 - 動物編 -. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課編, 名古屋.
- 日本ベントス学会 (編). 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会, 秦野. 285pp.
- 大城信弘・今井秀行. 2003. ワタリガニ科 Portunidae. 西 陸・鹿谷法一・諸喜田茂充 (編). 琉球列島の陸水生生物, pp.262-265. 東海大学出版会, 東京.
- Rahayu, D.L. and P.K.L. Ng. 2010. Revision of the *Parasesarma plicatum* (Latreille, 1803) species-group (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Sesarmidae). Zootaxa 2327: 1-22.
- 酒井 恒. 1976. 日本産蟹類 (Crabs of Japan and the Adjacent Seas). 講談社, 東京. 773pp. (英語版), 251pp. (図版), 461pp. (日本語版).
- 阪地英男・伏屋玲子. 2015. ノコギリガザミ属の種名と和名の対応の変遷. Cancer, 24: 47-51.
- Sekiguchi, H. 1977. Important meroplankton: zoea and megalopa of a pinnotherid crab *Pinnixa rathbuni*. Bull. Jap. Soc. Sci. Fish., 43: 239.
- 豊田幸詞・関慎太郎・駒井智幸. 2019. 日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑. 緑書房, 東京. 339 pp.
- WoRMS Editorial Board. 2024. World Register of Marine Species, <http://www.marinespecies.org>. 2024年8月11日確認
- 山田浩二. 2022. 二色の浜でのイクビホンヤドカリの記録. 自然遊学館だより, 104: 12-13.
- 山川 紘・鈴木克美. 1985. ノコギリガザミ三タイプの謎. 沖山宗雄・鈴木克美 (編). 侵略と攪乱の生態学. pp.110-117. 東海大学出版会, 東京.
- 山本藍子・水野晃秀・町田吉彦. 2007. 愛媛県愛南町の干潟で確認されたクシテガニ (カニ下目ベンケイガニ科). 四国自然史科学研究, 4: 62-64.
- 吉郷英範. 2022. 広島県から記録があるヤドカリ科とホンヤドカリ科 (甲殻類, 十脚目). 比婆科学, 274: 19-28.

中嶋ほか（2025） 伊勢湾最湾奥に位置する名古屋港ガーデンふ頭で採集された十脚目甲殻類（第2報）

表1. 名古屋港ガーデンふ頭で1992～2023年に確認された十脚目甲殻類リスト

No.	分類	種名	学名	中嶋・ 春日井 (2022)	名古屋市 (2025)
1	根鰓亜目 クルマエビ上科	クルマエビ科	ヨシエビ <i>Metapenaeus ensis</i> (De Haan, 1844)	●	
2			シバエビ <i>Metapenaeus joyneri</i> (Miers, 1880)	●	
3			ウシエビ <i>Penaeus monodon</i> Fabricius, 1798	●	
4	サクラエビ上科	ユメエビ科	キシユメエビ <i>Belzebub hanseni</i> (Nobili, 1906)	●	
5		サクラエビ科	アキアミ <i>Acetes japonicus</i> Kishinouye, 1905	●	
6	抱卵亜目 コエビ下目	テナガエビ科	テナガエビ <i>Macrobrachium nipponense</i> (De Haan, 1849)	●	
7			ユビナガスジエビ <i>Palaemon macrodactylus</i> Rathbun, 1902	●	
8			シラタエビ <i>Palaemon orientis</i> Holthuis, 1950	●	
9			アシナガスジエビ <i>Palaemon ortmanni</i> Rathbun, 1902	●	
10			スジエビモドキ <i>Palaemon serrifer</i> (Stimpson, 1860)	●	
11		Lysmatidae	アカシマモエビ <i>Lysmata vittata</i> (Stimpson, 1860)	●	
12		Thoridae	アシナガモエビ <i>Heptacarpus rectirostris</i> (Stimpson, 1860)	●	
13		エビジャコ科	ウリタエビジャコ <i>Crangon uritai</i> Hayashi & J.N. Kim, 1999	●	
14	アナジャコ下目	アナジャコ科	アナジャコ科 sp. Upogebiidae sp.	●	
15	異尾下目	ホンヤドカリ科	ケアシホンヤドカリ <i>Pagurus lanuginosus</i> De Haan, 1849	●	
16			ユビナガホンヤドカリ <i>Pagurus minutus</i> Hess, 1865	●	
17			イクビホンヤドカリ <i>Pagurus proximus</i> Komai, 2000	●	
18	短尾下目	イチョウガニ科	イボイチョウガニ <i>Romaleon gibbosulum</i> (De Haan, 1835)	●	
19		Inachoididae	イッカクモガニ* <i>Pyromaia tuberculata</i> (Lockington, 1877)	●	
20		Carcinidae	チチュウカイミドリガニ* <i>Carcinus aestuarii</i> Nardo, 1847	●	
21		ガザミ／ワタリガニ科	トゲノコギリガザミ <i>Scylla paramamosain</i> Estampador, 1950	●	
22			タイワンガザミ <i>Portunus pelagicus</i> (Linnaeus, 1758)	●	
23			ガザミ <i>Portunus trituberculatus</i> (Miers, 1876)	●	
24			イシガニ <i>Charybdis</i> (<i>Charybdis</i>) <i>japonica</i> (A. Milne-Edwards, 1861)	●	
25		Panopeidae	ハクライオウギガニ* <i>Acantholobulus pacificus</i> (Edmondson, 1931)	●	
26			ミナトオウギガニ* <i>Rhithropanopeus harrisi</i> (Gould, 1841)	●	
27		ベンケイガニ科	アカテガニ <i>Chiromantes haematocheir</i> (De Haan, 1833)	●	VU
28			クシテガニ <i>Parasesarma affine</i> (De Haan, 1837)	●	NT
29		モクズガニ科	モクズガニ <i>Eriocheir japonica</i> (De Haan, 1835)	●	NT
30			イソガニ <i>Hemigrapsus sanguineus</i> (De Haan, 1835)	●	
31			ヒメケフサイソガニ <i>Hemigrapsus sinensis</i> Rathbun, 1931	●	
32			タカノケフサイソガニ <i>Hemigrapsus takanoi</i> Asakura & Watanabe, 2005	●	
33		カクレガニ科	ラスパンマメガニ <i>Pinnixa rathbuni</i> Sakai, 1934	●	

*：外来種，VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧。